

テーマ
ア. 参加のきっかけづくり

主要課題	原因	対策	実践
<p>・なぜ幅広い住民参加が得られないのか</p> <p>・なぜいつも決まった人しか集まらないのか</p> <p>場があっても来る人は同じ。幅広い住民参加を得るには、どんなきっかけ(仕掛け)が必要か。</p>	<p>★楽しくないから参加しない</p> <p>興味・生活スタイルの多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> マンネリ化 行事の内容が偏っている 企画のアイデアが足りない 趣味の集まりなど地域の外での活動の方が楽しい 若い世代は子供の部活、習い事への参加や送迎、共働きなどで時間的余裕がない 	<p>★楽しければ参加したくなる</p> <p>行事・会議の内容や開催条件を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代などに応じて、興味をもってもらえる分野で企画する 地域全体の困りごとには皆関心を示す イベントを行う日程・時間帯を工夫する 外部の人などの知恵を借りる 利用者にやりたい企画を提案してもらう 女性のアイデアを生かす 	<ul style="list-style-type: none"> 若い女性対象: ワイン飲み比べなど 男性対象: そば打ち 子どもから大人まで: ものづくり教室 その他(健康体操教室、健康マージャン、カラオケ、飲食、旅行) 防災企画(断層見学) 夏休み中の子供向けイベントは平日に(土・日は家族で旅行) 行事や会議は夕食の時間帯は避ける 知名度のある講師を呼ぶ NPOに依頼する 民生委員や公民館長に相談する(地域の困り事、誰がどんな技術を持っているか) 利用者アンケートの実施(アンケートを書くだけでも参加) 育成会でお母さんに資金を渡して企画してもらったら、良い案が多く出た 育成会行事の運営の主役を子どもに(三九郎など) 独居男性を対象としたシニア食堂 …作った野菜持ってきてくれたら食事ができる 男性限定企画 (男の井戸端会議、料理教室、ものづくりなど) 40代役員OBの飲み会 ⇒地域を引っ張るグループに発展 女性役員OGのネットワークを活用 新旧役員の交流の場づくり 学校・地域連携企画による防災キャンプ(お泊り) 学校サポート事業(コミュニティ・スクール)への積極的関与 伝統行事やスポーツ大会後の慰労会でつながりを作る 夏祭り 昼間=子ども 夕方以降=親の飲み会 犬の散歩やウォーキングコース、コンビニでの挨拶などで交流 PTAのつながりを子供が高校生になっても保つ
	<p>無関心</p> <ul style="list-style-type: none"> 濃密な人間関係は面倒 地域のつながりの必要性を感じていない 地域に関心がない 地域に関わるのはPTAの時期だけ 	<p>様々な人を当事者として巻き込む</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者に役割を担ってもらう 家にこもりがちな独居男性を巻き込む 役員をサポートする体制を作る ・役員以外の実働部隊 ・役員などのOBが活躍する場 ※でも余計な口出しはしない 学校と連携して子供たちを巻き込む 	<ul style="list-style-type: none"> 町会でFacebook運用 町会だよりの発行 行事の数日前に高齢者に対して再度案内を配布する例) 花見 第1報 1ヶ月前 直前 前日くらいにポスティング(96軒) 見やすく(大きい字、要点のみ記載)
	<p>敷居が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> 常連の輪の中に入りにくい 年齢層が違うと参加しにくい 興味はあっても一人では行けない 知らない人と話すのが苦手 役員は大変そう 参加すると後で役員をやられる 	<p>つながりを生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性のネットワークを活用する ・人が人を呼ぶ あいさつ程度の緩やかなつながりを大切に できたつながりを保つ 輪番制で仕方なく組長をやったら地域の人たちとつながりができた 	
	<p>情報の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報が広がらない チラシ、案内文などを読んでもらえない チラシのデザインが10年同じ 	<p>情報発信を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい媒体の活用(SNSなど) 確実に伝わる工夫 読んでもらう工夫 	

■補足事項、その他の話題

1 つながる場としての行事の大切さ

集まるのは楽しむこと自体が目的か？
課題を解決するために集まる(つながる)のでは？

<ニワトリとタマゴの関係>

一人で考えていても課題は見えてこない。
集まって話すことで課題が見えてくる。
行事でできたつながりから後継者を見つける。
↓↑
楽しくないと人は集まらない。

・つながる場として、行事は必要
・大変でもやる意味はある
・やるなら楽しく！

2 子どもを巻き込む大切さ

- 親が地域に関われば子どもも関わる
- 子どもの頃から地域と関わることを「当たり前」と感じられるように
- 学校サポート事業(コミュニティ・スクール)では、いつも同じ人が講師をしている。
→ 地域やPTAにも知らしめて、積極的に関わりたい。

3 町会の再編

- ・戸数減少に伴い、組、班を再編成中
- ・役員選出の枠組みも再考
- ・つながるために、月1回定例打ち合わせ

4 情報発信

- ・役員の仕事をもっと住民に知らせる、住民が知ることが必要